

渡航先：インド（西ベンガル州）

インターン先：特定非営利活動法人 わびねす

滞在先：BISHNUPUR, BANKURA DISTRICT, WEST BENGAL（わびねすオフィス）

渡航期間：2019/2/26-2020/2/13

### 1, 渡航の目的

今回の渡航は、特定非営利活動法人わびねす（以下わびねすとする）にインターン生として参加することにより決定した。

わびねすの目的は「みんながイキイキワクワク生きることのできる社会」の創造だ。その目的のためにワークキャンプ事業部・就労支援事業部・教育事業部という3つの事業部に分かれて活動している。

今回私はすべての事業部の運営に加え、西ベンガル州にある11つのハンセン病コロニーの現状調査を目的とし、渡航をした。

### 2, 現地での活動

#### ①2019年2月~3月

西ベンガル州プルリア県に位置するマニプールコロニー・バンクラ県に位置するビシュナプールコロニーという2つのコロニーにてワークキャンプに参加。

#### ②2019年8月~9月

マニプールコロニーにてワークキャンプに参加。

#### ③2019年4月~2020年1月

わびねすのTwitter・Facebook・InstagramなどのSNSとWebsiteの運営、ブログ作成。

西ベンガル州アサンソル県に位置するチャクドラコロニー、バンクラ県に位置するピアルドバコロニー、マニプールコロニー、ビシュナプールコロニーという4つのコロニーにてワークキャンプ事業部、就労支援事業部に関わる活動。

#### ④2019年9月~2019年2月

西ベンガル州の中から11つのコロニーを選び調査。

#### ⑤2020年2月

梅本歯科基金様のご協力によりマニプールコロニーにて歯磨き講座や実態調査の実施、歯ブラシの配布。

### 3, 活動の内容と成果

①については、マニプールコロニーとビシュナプールコロニーにて世帯毎における被差別意識のリサーチやパーティを実施した。リサーチによって、マニプールコロニーでの今後の被差別意識へのアプローチの方向性を決定した。またビシュナプールのパーティーにはコロニー外の人々だけではなく、ハンセン病を学ぶことに興味のあるインド人大学生を招くことで、より多くの人にハンセン病コロニーの現状を知ってもらい、様々な偏見を取り除くことができたように思う。

②については、マニプールコロニーではハンセン病に対して差別意識があると言われていた隣村に赴きリサーチと啓発を実施した。リサーチの結果、若者になるにつれてハンセン病への差別心が少なくなっていく傾向がわかった。しかし一方で「差別心は無い」と言いながらも結婚やご飯を共にすることはできないという人が未だに少なく無いということもわかった。

③については、わびねすの支援者・参加者を増やすという目的のもと、SNS・Websiteの運営、ブログの作成と日々の更新をした。毎日のブログ更新やSNS運営により、WebsiteのView数は2019年3月の2,433から2020年1月11,244まで、およそ4倍まで増加した。

④については、笹川保健財団の委託を受け、西ベンガル州の中から11つのコロニーを選び調査を実施した。調査ではコロニーの全世帯に対して、家族構成や就職状況、医療状況、政府からの支援や保険の有無、差別の経験や家屋の状態を調査した。

この調査によって、11つのコロニーの詳細な状況を把握することができた。この情報をもとに笹川保健財団だけではなく、わびねすも今後活動するコロニーを広げていく。既に9月に調査を実施したカルヤンプルコロニーでは新たに就労支援のプロジェクトが開始している。

⑤については、マニプールコロニーにて50人ほどの子供達に向けて紙芝居や小道具を使って歯磨き講座を実施した。またその際子供達やその母親に対して歯磨き状況の確認や講座によって得られた知識の確認のリリースも実施した。その結果、講座によって子供達やその母親が「適当な一日の歯磨きの回数」や「歯磨きをしないことで病気になるリスクが上がること」などを学んだことがわかった。

#### 4, 写真

